

第1章 持続可能な社会を目指して

第1節 環境の世紀のあり方

1 今日の環境問題

私たちを取り巻く自然環境は、大気・水・土壌・生態系の微妙なバランスによって成り立っています。

他方、今日の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムは、生産、流通、消費、廃棄等の各段階において、資源・エネルギーの採取、不用物の排出等の形で自然環境に対し負荷をかけています。元々、自然環境には、人間の活動によって生じた負荷を吸収・軽減する機能がありますが、その機能にも限界があり、それを超えたとき様々な環境問題が生じてきます。

今日の環境問題は、次の3つの大きな特徴が見られます。

第一は、環境問題の多くが私たちの日常生活や事業活動に起因しており、私たちの多くが原因者であり、被害者でもあるケースが一般化していることです。

第二は、長期的な影響をもたらすようなおそれがあり、また、発生のメカニズムや影響の科学的解明が十分でない問題が増えていることです。

第三は、人間の活動領域の拡大が、人と環境との関係に大きな変化をもたらし、自然の物質循環や生態系に深刻な影響を引き起こしていることです。

2 実現すべき社会

私たちは、こうした今日の環境問題を克服しながら、豊かな環境を守り、次代へと継承していく責務があります。このためには、私たちの日常生活や事業活動など、社会のあり方を見直す必要があると考えられます。

1. 環境と人との関わり

私たちは、将来の世代に、良好な環境を継承していくという大きな責任を負っています。このまま手をこまねいていると、良好な環境を確保するために、さらに多くの年月と経費を要することになります。今、私たちは、知恵と努力を傾けて持続可能な社会を目指し、環境との間に健全な関係を築いていかなければならない、大きな分岐点に立っています。

2. 持続可能な社会の構築

持続可能な社会を実現するためには、可能な限り環境への負荷を生み出す資源・エネルギーの使用を効率化するとともに、生産活動や消費活動の単位あたりの環境負荷を低減する必要があります。

今後の方向性としては、あらゆる主体が自らの日常生活や事業活動において、十分な環境配慮を織り込むことにより、大量生産・大量消費・大量廃棄の生産・消費パターンから脱却し、資源・エネルギーの大量消費に依存しない新たな段階に移行することが必要です。